



# すまいるだより

## 「子どもにとってのあそびとは」

vol 19

【子育てのご相談】  
子育て世代包括支援センター  
「えがお」（健康福祉課内）  
電話 0241(62)6170  
メール egao@minamiazu.or.jp

**寒**さが厳しくなり、子どもたちも室内で過ごす時間が多くなる季節になりました。最近、多くの方から「子どもが集まってゲームしにくい」という声を聞くことが増えていきます。そもそも、どうして子どもに「あそび」が必要なのでしょう。なぜ、ゲームやテレビは、大人が遊んでいないと感じるやりとりなのでしょう。

**子**どもにとって「あそび」とは「生きること」そのものだと言っている研究者がいます。子どもは遊びながら多くのことを学び、成長し、心を豊に育むからです。1990年には世界中の子どもの権利を守るため、国際条約として「子どもの権利条約第31条」が発効され、子どもが遊ぶ権利は保障されるほど大切にされています。

**子**どもの遊びは、発達の段階に伴って変わります。赤ちゃんのころは、見る・聞く・

触るなどの感覚を使う遊びで理解力を高めるので、がらがらやオルゴールなどが使われます。もう少し大きくなると、身体を動かして運動能力を身に付ける遊びが増え、ボールやジャンブルジムなどの遊具も有効になります。積み木、お絵描きなど、物を組み合わせて工夫する遊びや生活の中で目にしたことを真似るおもまごなどは、想像力や生活適応力を身に付ける遊びの代表です。

**遊**びの中でつまづいたとき、子どもは自ら試行錯誤し、他の人のやり方を真似ます。このような一連から、子どもは大人の想像以上に、人生にとって大切なことを獲得していくのです。

一方で、「あそび」とよく似ているのが「娯楽」です。大きな違いは、あそびは自発的、娯楽は受動的であるということです。【あそび】は、子ども

もの「やってみたい」という気持ちからスタートし、子どもが楽しさを工夫する余地があるものです。【娯楽】はテレビゲームや電気かけのおもちゃのように、スイッチを入れたあとは受動的に物事が進んでいくものです。遊びも娯楽も、人生を豊かにする点に違いはありませんが、乳幼児や成長過程の子どもにとって、【あそび】の方がより重要と考えられています。

**子**どもの中には、好きな遊びを自分で見つけたたり、やり取りのある遊びが苦手な子どももいます。子どもが「他者と関わるあそび」を好まない場合、一人遊びを叱ったり、無理にやめさせたりする必要はありません。一人で楽しむ遊びは、穏やかな気持ちを取り戻し、リラックスクスするため非常に有効だからです。

**た**だ、子どもがまざりたいようなときは、大人の少

しの工夫で、遊びを広げることができるとあります。まずは、遊びの種類を子どもの興味を持つ物に合わせ、家庭で取り組みやすいものを使ってみましょう。

**例**えば、抱っこしてぐるぐる、たかいたかい、トラポンポンなどの身体を使う遊びは、子どもが楽しい感覚を得やすい遊びの代表です。怖がったり嫌がったりしているときは無理をしません。

**ま**た、歌と一緒に興味を持つてもらいながら行う手あそびやにらめっこ、あるいは順番にボールを転がし合うようなやりとり遊びは親しみやすいものです。繰り返しのパターンを経験すると、子どもは次の大人の動きを期待したり待つたりする様子が芽生えてきます。

**た**くさんある遊びの中でも、まずは子どもが「一緒に遊ぶと楽しいな」と感じること

が重要です。子どもが一人遊びに少し飽きてきたタイミングや、次の遊びを探しているときにねらって関わってみましょう。

**遊**びは、今も昔も関係なく楽しめるものが多くあります。ケンケンパやなぞなぞ、あやとり、絵本の読み聞かせなど、発達に貴重な影響を与える遊びは、子どもが大好きなおじいちゃんやおばあちゃん世代がいろいろな技を持っています。

**こ**れからの季節、さまざまに世代が持っている遊びを使い、娯楽だけでなく「あそび」をおして子どもの生きる力を育むことも素敵な過ごし方だと思えます。



【お読みください】  
かこさとしあそびの本 シリーズ(1)〜(4)  
かこさとし/作